

論御定之外、給銀を増召抱候主人無之様尤之事。

一、奉公人抱濟候者、如去年一組切に帳可有御取集事。
一、御家中下屋敷、其外請地之内屋敷貸置候あたまふり有之候者、其者并請人を書記、一組切に可有御取集事。

一、奉公人抱濟帳面取出候以後重而召置候者、或放扶持或死去人有之候者、如去年以番付可有斷事。

右番付帳面、組頭より、奉公人御奉行加須屋八郎右衛門・西村六右衛門・平岡五左衛門・角尾五左衛門方々、早速可有御渡候。此旨御組中にて可被仰觸候。以上。

(寛治四年) 正月廿五日

横山 右近
菊池 大學

本多 安房殿
長九郎左衛門殿
前田 對馬殿
奥村 河内殿
奥村 因幡殿
横山 左衛門殿 留守居

覺

役小者

一、百拾匁より九拾目迄 但、江戸其外他國詰仕候は拾五匁之まし銀、江戸に當座歸に遣候は五匁、京都に者三匁

鍔持

一、百拾匁 上 但、江戸其外他國詰仕候は拾五匁之まし銀、江戸に當座歸に遣候は五匁、京都へは三匁

一、百目 中 右同斷

一、九拾目 下 右同斷

馬捕

一、百目 上 右同斷

一、八拾五匁 中

一、七拾目 下

乗物かき小者

一、九拾五匁 上 右同斷

一、八拾目 中

一、六拾五匁 下

草履取

一、七拾目 上

右同斷

一、六拾目 中

一、四拾五匁 下

あらしこ

一、五拾目 上

一、四拾目 中

一、三拾五匁 下

右相違有間敷候。但、相對を以御定より給銀少分に召置候儀者、可爲勝手次第候。以上。

萬治四年正月廿五日

公事場

一六 奉公人之帳一組切可差出儀御定

一、御家中一年切奉公人、毎春出替、置捕候者、先番申觸候通、一組切帳御取集、奉公人御奉行迄御渡可被成事。
一、季半に暇を出し候もの有之候者、組頭不及斷、主人方

より直に御奉行に可相斷事。

一、増人・欠人有之候者、是又同斷之事。

一、二月出替之時分、又季半に暇を遣候共、御奉行に其者不可及遣事。

一、跡々より居成に有之者は、給銀可爲相對次第事。
右之趣御組中にて可被仰觸候。以上。

(寛治四年) 二月朔日

横山 右近
菊池 大學

長九郎左衛門殿
本多 安房殿
前田 對馬殿
奥村 河内殿
奥村 因幡殿
横山 左衛門殿 留守居

一七 奉公人召仕候者可守御定儀觸

自今以後一年切奉公人、去年以御印被仰出之通、彌被相守